

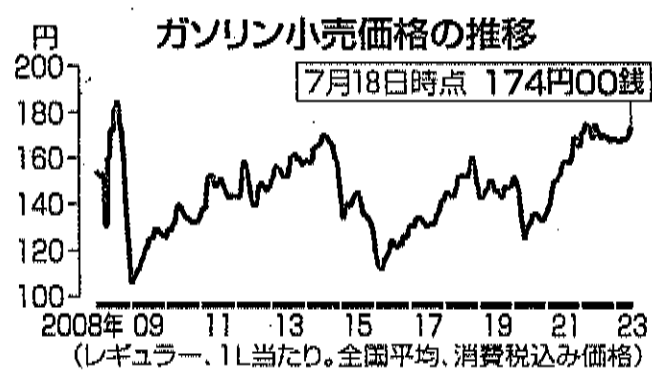
# ガソリン **どんどん** 値上がり

## 全国平均174円

ガソリン価格が高騰している。経済産業省が二十日発表した十八日時点のレギュラーガソリン一リッター当たりの全国平均小売価格は百七十四円ちょうどで、前週調査から七十銭上昇。九週連続で値上がりし、昨年六月以来十三カ月ぶりの高値となった。政府が価格抑制のための補助を段階的に縮小していることが主因で、今後も上昇傾向が続く見通し。自動車での遠出など夏の行楽に痛みとなりそうだ。

サウジアラビアなど主要産油国が追加減産により、原油相場の下支えに動いていることも影響した。ガソリンの価格上昇に歯止めがかからず、ロシアがウクライナに侵攻した昨年以降の最高値である百七十五円二十銭に迫る勢いとなっている。

調査した石油情報センターの担当者は「原油相場の上昇や補助の縮小で来週も値上がりを見込んでいる」と述べた。



都道府県別では四十一都道府県で値上がりし、五県で値下がり、一県は横ばいだった。最も高いのは長野県の百八十三円六十銭で、鹿児島県の百八十一円七十銭が続いた。岩手県が百六十八円八十銭で最も安かった。

ハイオクガソリンは全国平均で七十銭高い百八十四円八十銭、軽油は六十銭高い百五十三円六十銭。灯油は十八円（一般的なタンク一個分）当たり七円上昇し、二千六十円だった。いずれも九週連続の

## 主因は政府補助の縮小

値上がりとなった。政府の補助は石油元売り会社へ支給し、卸価格の抑制を通じてガソリンスタンドでの小売価格に反映させる仕組み。経産省は十八日時点のレギュラーガソリン価格に対して十一円四十銭の抑制効果があったと説明している。

補助は六月以降、段階的に縮小して九月末で終了する予定。今月二十日からの補助金額は一リッター十円二十銭となる。

食品や日用品が値上がりして家計負担が増す中、ガソリン価格の上昇が続けば、夏休みの旅行や消費を控える動きにつながる可能性がある。

**ガソリンの価格高騰対策** 原油価格の上昇や円安を受けた政府の物価高対策の一環。ガソリンや灯油などの家計負担を軽減する燃料油価格激変緩和対策事業として2022年1月に始めた。政府が石油元売り各社に補助金を支給。元売り会社が補助を反映した価格でガソリンを流通させ、ガソリンスタンドなどでの消費者への小売価格を抑える。これまでに措置した予算は6兆円に達している。